

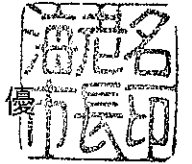


平成19年 5月 8日

道路整備に関する意見

国土交通省 道路局長 殿

海老名市長 内 野



道路は都市づくりの骨格となるとともに、活力ある経済社会活動を支える最も基本的な社会基盤施設であり、その整備は地域住民が長年にわたり熱望しているところであります。

現在、整備中の首都圏中央連絡自動車道や第二東海自動車道を始めとする高規格幹線道路は、交通混雑の緩和や都心に集中する業務機能の分散に貢献するほか、大気汚染を抑制するなどの環境問題等に極めて有用であります。

本市は神奈川県の中核部に位置し、首都に集中する経済構造の影響を受け人口が増加し、市街化が進行しました。

「住みたい・住み続けたい海老名」豊かな生活環境の創造が図られるよう、下記の意見を提出いたします。

記

- 1 交通渋滞の解消を図ることは、地球温暖化対策につながり、大気、騒音などの改善が期待できるものです。首都圏中央連絡自動車道は、国が定めた「目標宣言プロジェクト」に捉われず、事業の前倒しを積極的に図り、早期整備による環境問題の解決を図っていただきたい。
- 2 道路ネットワークの形成を図り、高規格幹線道路等が効果的に活用できるよう海老名以東の第二東海自動車道の計画を策定していただきたい。又、高規格幹線道路と接続する、市が行う道路網整備に対して国の新たな助成制度の確立を図っていただきたい。
- 3 少子高齢化が進展し、既存道路のバリアフリー化、事故危険箇所対策や無電柱化は、日常生活に必要な対策となっております。高齢者や子供にとって安心して安全に暮らせるまちづくりが可能となるような交通政策を積極的に促進していただきたい。